

平成30年度

シラバス

青翔開智高等学校

第1学年

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態	
国語	国語総合(現代文)	2	高校1年	必修	
科目の目標	評論、小説の読解によって読解の技術および読解に必要な知識を身につけること。 それによって世界を認識する視点を獲得すること。 また、ディベート等の表現活動によって情報収集から発表までのプロセスを身につけること。				
学習内容の概要	評論の読解ではその技術だけでなく重要テーマについての知識も同時に身につける。 小説の読解では文学研究の手法で本文理解だけにとどまらない鑑賞方法を学習する。 定期的に授業冒頭で、漢字もしくは語句の小テストを実施する。 また、月1回程度表現活動を実施、表現および教科書外のテーマについても学習する。				
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	各言語活動に積極的に参加しているか。	目的や場に応じた確に聞き取り、自分の意見をまとめ深めることができるか。	相手や目的に応じた適切な文章を書くことができるか。	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読み取ることができるか。	読解に必要な知識を習得することができるか。
評価の方法	定期考査	70%	授業態度等	30%	
教科書、教材	国語総合現代文編(大修館書店)、国語辞典(指定なし)、漢和辞典(指定なし)、ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)、教材プリント				
授業形態	一斉				

年間学習計画												
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点			
1学期	4	ガイダンス		1	○							
		「水の東西」 / 演習	東洋と西洋の差異とその背景について理解する	2								
	5	「空気を読む」	本文の要約をする	8								
	6	『美しさの発見』について	世界を認識する方法としての言語について理解する 人間と自然の関係に対する筆者の意見を読み取る	3								
		「自然と人間関係を考える」		3								
	7	ビブリオバトル	プレゼンテーション能力を磨く 学校図書館と連携する	4								
2学期		8	「羅生門」	登場人物の心理や性格について理解する 登場人物の言動から心情を読み取る						5		
	9											
	ディベート	テーマは生徒が設定する 学校図書館と連携する	3									
	10	「メディアとしての顔」	情報化社会とメディアの関係を考える	8								
	11	「鏡」「コート」	善悪について考察する	8								
	12	「城の崎にて」	人間の生と死について考察する 近代文学史について理解する	8								
3学期	1	「白」「意味と身体」／演習	主要な部分と従属的な部分を読み取る 現代の日本文化に興味を持つ	13								
	2											
	3	短歌を詠す一言葉の壁を超えて	創作活動	4								
		文学史	時代・作品等は生徒が設定 学校図書館と連携する	3								

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
地理歴史	世界史A	2	高校1年	必修

科目の目標	世界の歴史に関する知識と教養を養う。世界史と地理、世界史と現代世界との接点、及び人間の知性を規定する時代精神などを理解する。			
学習内容の概要	古代から現代にいたる世界の歴史を学ぶ。古代から中世、中世から近代という時間軸を用いてまず「地域史」を講義する。その後、地域を横断する「時代史」を講義して総括する。なお現代史においては、特にグローバル化によって地域の相互作用が大きいため、「現代史」として地域横断的な授業を行う。			
評価の観点	意欲・態度	歴史に対する感性・理解	地域に対する感性・理解	人間に対する感性・理解
	学習内容への研究に意欲をもつこと	発生した事象の歴史的意義に対する理解度	発生した事象同士の相互関連性への理解度	歴史に登場する人物と現代人との共通点・相違点への理解度
評価の方法	定期考査 70% 授業態度等 30%			
教科書・教材等	現代の世界史(山川出版)、最新世界史図説タペストリー(帝国書院)			
授業形態	一斉			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	西アジア世界の形成	古代オリエント	4					
	5	東アジア世界の成長	古代・中世の中国	6					
	6	イスラーム世界の出現と発展	古代・中世のイスラーム世界	8					
	7	ヨーロッパ世界の形成と発展	古代・中世のヨーロッパ	6					
2	8	ヨーロッパ世界と結びつく世界	大航海時代、宗教改革、絶対王政	8					
	9								
	10	イスラーム世界の拡大と安定	近世のイスラーム世界と中国	8					
	11	欧米近代社会の形成	ヨーロッパの市民革命と復古主義	8					
	12	欧米諸国の世界進出	帝国主義	6					
3	1	2つの世界大戦	現代の世界史①	6					
	2	戦後世界の流れと各地域の動向	現代の世界史②	10					
	3								

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
公民	現代社会	2	高校1年	必修

科目の目標	科学的な探究の精神に基づき、現代社会の仕組みや成り立ちを分析・理解するとともに、社会における人々の規範を確認し、社会に貢献できる公民として必要な能力と態度を養成する。			
学習内容の概要	政治分野・経済分野・国際分野の三つの観点から社会の成り立ちを考え、また人間の生き方あり方を哲学、宗教的分野から考察していく。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	社会的事象に対する関心を高め、意欲的に追求しながら、社会の一員としての自覚と責任を養えることができる	社会的事象から課題を見出し、意義や特色、相互の関連を多角的に考察し、社会の変化をふまえて公正に判断することができる。	平素から各種の資料に親しみ、情報を適切に選択して活用し、追求した過程や結果を適切に表現できる。	社会的事象の意義や特色を理解し、知識を身につけ、社会生活の中で有用に活用できる能力が育っている。
評価の方法	定期考査 70% 授業態度等 30%			
教科書・教材等	現代社会〔改訂版〕(山川出版)、現代社会改訂版ノート(山川出版)、現代社会10分間テスト(山川出版)、現代社会演習ノート(数研出版)、最新現代社会資料集2018(第一学習社)			
授業形態	一斉			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	わたしたちの生きる社会	1 環境	2					
			2 資源・エネルギー	2					
	5		3 生命	3					
			4 情報	2					
	6	青年期と自己形成	1 青年期の意義と自己実現	3					
			2 よく生きるということ	3					
	7	現代の経済社会と経済活動	3 日本の伝統や文化	2					
			1 現代経済のしくみ	4		○			
2	8	のあり方							
	9		2 経済の発展と国民生活	7					
	10	現代の民主政治と民主社会の倫理	1 日本国憲法の成り立ち	6					
	11		2 基本的人権の保障	6					
			3 平和主義と日本の安全保障	4					
	12		4 現代政治と民主主義	6					
3	1	国際社会の動向と日本	1 現代の国際政治	13					
				0					
	2		2 現代の国際経済	13					
				0					
	3	ともに生きる社会をめざして	現代の諸制度の考察	2					
				0					

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
数学	数学Ⅰ	3	高校1年	必修

科目の目標	「数と式」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」及び「式と証明」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。							
学習内容の概要	数を実数まで拡張させ、式や関数について中学までの既習内容をより一般化する。また、新たに三角比を導入し、三角形の辺の長さの比を用いてさまざまな図形を考察する。さらに、統計処理に関する内容も取り扱い、データを整理、分析する方法を学ぶ。 命題の必要性、十分性を学ぶことによって、より数学的に考察する方法を習得する。							
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解				
	各単元の考え方に関心を持ち、事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現する、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	各単元における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査	70%	小テスト	10%	提出物	10%	授業態度	10%
教科書、教材	改訂版数学Ⅰ（数研出版）、体系数学3数式・関数、体系問題集3数式・関数編							
授業形態	一斉							

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	数と式	数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解する。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 ・式の計算 ・実数 ・1次不等式 ・集合と命題	24					
	5								
	6								
	7	データの分析	統計の基本的な考えを理解し、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 ・データの代表値 ・データの散らばりと四分位範囲 ・分散と標準偏差 ・データの相関 ・表計算ソフトによるデータの分析	21					
8									
9	2次関数	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識する。さらに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・2次関数とグラフ ・2次方程式と2次不等式	24						
10									
11									
2	12	図形と計量	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識する。さらに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・三角比 ・三角形への応用	24					
	1								
	2								
	3	式と証明	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	12					
	2								

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
理科	地学基礎	2	高校1年	必修

科目の目標	地学の基本的な概念や原理・法則を理解すること。科学的思考力および好奇心を伸ばし、主体的に自然を探究する能力と態度を高め、目的をもとに課題を科学的に分析・解決する能力を養うこと。			
学習内容の概要	地球の構造と内部の活動、地球史、大気の循環と気象の変化について理解する。太陽系を中心とした天体の特徴を理解し、太陽、地球、月といった天体と一般的な恒星、惑星、衛星とに関連づけて理解する。			
評価の観点	関心・意欲・態度 地学的な事物・現象に関心・探究心をもち、意欲的に解決する態度を身につけようとする。	判断・思考 地学的な事物・現象に問題を見だし、事象を科学的に考え、判断できる。	観察・実験の技能・表現 地学の事象・現象を科学的に探究する方法を身につけ、過程や結果を的確に表現できる。	知識・理解 地学に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、身につけている。
評価の方法	定期テスト 70% 意欲・提出物等 30%			
教科書・教材等	教研出版『地学基礎』 センター地学基礎改訂版 その他プリント			
授業形態	一斉			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	ガイダンス	地学を学ぶにあたって 地球の外観、地球の内部構造、プレートテクトニクス理論、地震波の伝達、火山活動と火成岩の形成 ※図書利用(恐竜のいた時代)					○	
		固体地球とその変動							
	5	移り変わる地球							
	7								
2	8	堆積岩とその形成、地層と地質構造、地球の歴史の組み立て、先カンブリア時代、顕生代							
	9								
	10								
	11	大気と海洋	大気圏、水と気象、太陽放射とエネルギー収支、大気の大循環、海水の循環、日本の気象						
3	1	宇宙の構成	太陽系の天体、太陽系の誕生、太陽、太陽と恒星、太陽の誕生と進化、銀河系と宇宙						
	3	自然との共生	地球環境と人類、災害、防災						

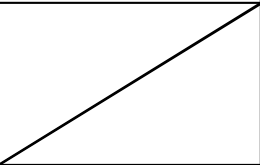
教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
体育	体育	2	高校1年	必修
科目の目標	①運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。 ②運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。 ③運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。			
学習内容の概要	体育分野の内容は、運動に関する領域及び知識に関する領域で構成されている。運動に関する領域は、「体づくり運動」、「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「球技」、「武道」及び「ダンス」であり、知識に関する領域は、「体育理論」である。また、能率的で安全な集団としての行動の仕方（集団行動）を各領域において適切に行う			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	30%	10%	30%	30%
教科書・教材等	保健体育（大修館）			
授業形態	男女別			

年間学習計画													
学期	月	題材	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点				
1	4	体づくり運動	オリエンテーション、軽スポーツ、集団行動、補強運動、新体力テスト	6									
	5	球技 陸上競技 [中距離]	AIアプリを活用しフォームの分析、レペティション、インターバル、1500mタイム測定	6									
	6	球技 ゴール型 [バスケットボール]	パス練習、ドリブル練習、シュート練習、試合	8									
	7	球技 ベースボール型 [ソフトボール]	・打撃・捕球・送球などの用具操作 ・走者と連携した打撃による攻撃とその守備 ・ゲーム	6									
2	8	球技 ネット型 [バドミントン] 体育理論	ラケットの持ち方の確認、各ショットの練習、ゲーム	6									
	9												
	10	球技 ゴール型 [サッカー]	パス練習、ドリブル練習、シュート練習、試合	8									
	11	球技 ゴール型 [ハンドボール] 体育理論	・パス、シュート、ドリブル等の基礎的なことからゲーム展開 ・自分のシュートフォームをiPadで撮影して改善点を見つける。	8									
	12	球技 ネット型 [卓球]	ラケットの持ち方の確認、各ショットの練習、ゲーム	6									
3	1	器械運動 [マット、器械運動]	回転系の技の習得(前方倒立回転・ロンダート等)	9									○
	2												
	3	球技 ネット型 [バレーボール]	・パス・アタック・サービス、試合	9									

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
体育	体育	2	高校1年	必修

科目の目標	① 各種の運動の合理的な実践を通して課題を解決することにより運動の楽しさや喜びを味わうと共に、運動技能を高めることが出来るようにし生活を明るく健全にする態度を育てる。② 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気づき、身体の調子を整えると共に、体力の向上を図りたくましい心を育てる。③ 運動における競争や協同の経験を通して公正な態度や進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動することができる。							
学習内容の概要	単元ごとの目標を明確にし、必要に応じて情報提供をおこなったり、自らインターネットや本で情報を集めたりするなど、健康に対する意識を高められるような授業展開をする。 内容は、運動に関する領域及び知識に関する領域で構成されている。運動に関する領域は、「体づくり運動」、「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「球技」、「武道」及び「ダンス」であり、知識に関する領域は、「体育理論」である。							
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識理解				
	運動の楽しさに触れ全力で運動しようとしている。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとしている。	運動の特性に応じて、自己やグループの課題の解決を目指し、活動の仕方を考えたり工夫したりしている。また、その結果を適切に振り返っているか。	運動の課題や行い方、戦術を基に運動を行うことが出来、運動の特性に応じた技能やゲームの進め方を身につけている。	運動に関わる心身の動き、運動の行い方や作戦、運動の練習の原則及び生活における運動の取り入れ方や意義に関する基礎的な知識を理解し、身につけ生かしている。				
評価の方法	30	%	10	%	30	%	30	%
教科書・教材等	保健体育(大修館)							
授業形態	2クラス合同、男女別							

年間学習計画													
学期	月	題材	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点				
1	4	体づくり運動	・集団・整列 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 ・体力テスト	4	○	○		○					
	5	球技・ハンドボール	・パス、シュート、ドリブル等の基礎的なことからゲーム展開 ・自分のシュートフォームをiPadで撮影して改善点を見つける。	8									
	6	陸上	(長距離走)リラックスした走り、自分にあったピッチとストライドを見つける。	6									
	7	バレーボール 体育理論「スポーツと経済」	・パス・アタック・サービス ・対人パスをiPadで撮影して改善点を見つける。 ・スポーツの経済効果を理解し、地元プロチーム「ガイナレ鳥取」の集客力を高める。	8									
2	8	球技・ソフトボール 体育理論「スポーツと経済」	・打撃・捕球・送球などの用具操作 ・走者と連携した打撃による攻撃とその守備 ・ゲーム	8						○			
	9												
	10	球技・バスケットボール 体育理論「スポーツと経済」	・パス、シュート、ドリブル等の基礎的なことからゲーム展開 ・チームの攻守をiPadで撮影して改善点を見つける。	8									
	11	球技・バドミントン 体育理論「スポーツと経済」	ラケットの持ち方の確認、各ショットの練習、ゲーム	6									
	12	選択 器械運動・ダンス	(マット運動)グループで教え合い、技の練習。	6									
3	1	卓球 体育理論「スポーツと経済」	ラケットの持ち方の確認、各ショットの練習、ゲーム	10						○			
	2												
	3	バレー	・パス、アタック、サービス練習 ・試合	6									

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
保健	保健	1	高校1年	必修
科目の目標	個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
学習内容の概要	・国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。 ・健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。 ・人間の欲求と適応機制には、様々な種類があること。 ・交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行などの適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などがかわること。 ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。			
評価の観点	関心・意欲・態度 現代社会と健康について、自分の経験や仲間との意見交換などをもとに話し合う活動に、意欲的に取り組もうとすることができる。	思考・判断 現代社会と健康について、自分の経験や仲間との意見交換などをもとに、考えることができる。	運動の技能 	知識・理解 健康・安全の意義を理解するとともに、課題の解決に役立てる基礎的な事項を理解し、身に付けている。
評価の方法	20	%	20	%
教科書・教材等	保健体育(大修館)			
授業形態	男女別			

年間学習計画									
学期	月	題材	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	現代社会と健康	私たちの健康のすがた、健康のとらえ方、健康と意思決定・行動選択	2					
	5		健康に関する環境づくり、歴史からみたさまざまな健康問題のとらえ方、生活習慣病とその予防	3					
	6		食事と健康、運動と健康、休養・睡眠と健康	3					
	7		喫煙と健康、飲酒と健康	3					
2	8								
	9		薬物乱用と健康、健康にかかわる行動を考えてみよう	3					
	10		現代の感染症、感染症の予防、感染症・エイズとその予防	3					
	11		欲求と適応機制、心身の相関とそのストレス、ストレスへの対処、心の健康と自己実現	3					
	12		交通事故の現状と要因、交通社会における運転者の資質と責任	4					
3	1		安全な交通社会づくり、防災・防犯を目指した社会づくり	4					
	2		応急手当の意義とその基本、心肺蘇生法	3					
	3		日常的な応急手当	2					

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
音楽	音楽 I	2	高校1年	選択

科目の目標	人間が生活や社会の中でどのように音楽を生み出し、育んできたのかを知るとともに、文化的、歴史的背景などの広い視野と、深く細部を見る目をもって、音楽についての理解を深めていくこと。また、音楽の幅広い表現を通して、生涯にわたり音楽を愛好し、その存在を身近なものに感じる心を育むこと。			
学習内容の概要	曲想、歌詞の内容、楽曲の背景など、楽譜に記されていること、記されていないことの両方から、その曲が表現しようとするものを真摯に読みとることの大切さを学ぶ。その上で、自分なりのイメージを膨らませながら、思いをもって表現できるように工夫していく。			
評価の観点	音楽への関心、意欲、態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
	個人での学びと、人との協力の両面から何かを感じ取り、自分なりの興味や工夫をもって参加している。	曲のもっている良さや特質に関心を持ち、自己のイメージや感情を生かして表現をしている。	リズムやハーモニーの重なりなど、音楽の要素について、その特徴や役割に関心を持って表現している。	曲のもっている情景や心情を、自分の感情を通して感じ取っている。
評価の方法	定期考査 40% 実技 30% 提出物 30%			
教科書・教材等	高校生の音楽1、マイソング、他			
授業形態	一斉、グループ、ペア、個人			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	イメージと歌唱表現	曲想を感じ取り、イメージをもって、声の音色や強弱、フレーズなどを工夫しながら楽曲にふさわしい表現を求めていく。	3					
	5	西洋音楽史	音楽の特徴とその背景となる文化・歴史に関心を持ち、音色や雰囲気を感じながら鑑賞する。	3				○	
	6	ポピュラーミュージックとコード	ジャズや他のポピュラーミュージックのリズム、音階、和音などの特徴を知覚し、独特な曲想を感じ取りながら鑑賞するとともに、コードによる伴奏付けを学習する。	4					
	7	響きを意識した歌唱表現	各声部のかかわり合いや全体的な調和、お互いのバランスを聴きながら、合唱表現の特徴を生かして歌う。	4					
2	8								
	9	器楽表現(リズムアンサンブル)	音素材の特徴や反復、変化、対照などの構成を生かし、リズムアンサンブル、リズム創作をする。	5					
	10	日本の歌曲	日本の歌詞の美しさ、声の音色、歌とピアノ伴奏とのハーモニーやアンサンブルを意識し、日本の歌曲の味わいを感じ取りながら歌う。	5					
	11								
	12	創作表現	音階やリズムを選んで旋律を作り、その旋律に和音などをつけて、イメージを持って音楽をつくる。	4					
3	1	鑑賞(音楽とその背景)	楽器の音色や音楽の構造など、作曲家や時代による曲想の違いや表現の特徴、また文化的、歴史的背景などを理解するとともに、それぞれの良さや美しさなどを味わいながら鑑賞する。	4	○				
	2	音楽の世界を広げる	世界の様々な種類の音楽を聴くことを通して、それぞれの楽曲が持つ世界に触れ、その響きがつくりだす感情、表情のうねりなどを体で感じてみる。そこで感じたものを、それぞれが自由に表現へとつなげる。	6					
	3								

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
芸術	美術 I	2	高校1年	選択

科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。							
学習内容の概要	表現・造形の基礎となる観察力を深め、形体や空間などの的確な表現力を身につけ更に個性的な表現方法を学ぶ。生活の中にあるデザインに気づきその重要性を知る。ポスターの制作を通してメッセージを伝える方法を学ぶ。 鑑賞・様々な視点から作品を見る方法を学び、作者の心情を読み解く力を養う。自然と美術との関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解を深める。日本の美術の歴史や特質、日本及び諸外国の美術文化について理解を深める。							
評価の観点	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力				
	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい美術を愛好していこうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し、創造的に表している。	美術作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感知取り味わったり、理解したりする。				
評価の方法	定期考査	50%	発想・構想	20%	技能	20%	授業態度	10%
教科書、教材	美術Ⅰ（日本文教出版）、スケッチブック							
授業形態	一斉							

年間学習計画									
学期	月	題材	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	ガイダンス 美術作家を調べる		4				○	
	5	バッグのデザイン	・バッグのデザインを考え、バッグを作る。	28					
	6								
	7								
2	8								
	9								
	10	対話型鑑賞	・話し合いながら世界の名画を深く鑑賞する。	8					
	11	ねんどを使って 映像制作	・ねんどで主人公を作り、校内外で映像をグループで つくる。	18					
	12								
	3	1	スプレーアート	・スプレーを用いて作品を作る。					
2									
3									

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	4	高校1年	必修

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つことができる。またまった英文を読み、内容を的確に理解することができる。英文を読み、テーマに関する自分の考えや概要などを適切に伝えることができる。言語の使用場面や目的に合わせて、語彙・文法事項を適切に運用することができる。			
学習内容の概要	上記の目標達成のために、伝統文化、科学、世界情勢、教育、自然環境、戦争と平和などに関する英文読解を行ったり、図書館利用活動を通して学びを深めたりする。 必要な英語表現を覚え、適切に書いたり、話したりできるように演習を行う。			
評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力 (話すこと・読むこと・書くこと)	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を英語で話したり、書いたりして適切に表現することができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手が伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。 また、聞き手に伝わるように適切に音読することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。
評価の方法	課題提出 授業態度		30%	定期考査
				70%
教科書・教材等	FLEX ENGLISH COMMUNICATION I、FLEX ENGLISH COMMUNICATION I ワークブック(以上、増進堂) 総合英語FACTBOOK(桐原書店)			
授業形態	習熟度別			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	オリエンテーション		1					
		FLEX Lesson1-Lesson3	受動態、to不定詞、動名詞、進行形、間接疑問、分詞、助動詞、現在完了	39					
	5								
	6								
	7	スピーチ、e-spire	これまで習った表現を使い、スピーチを行う	8	○			○	
2	8	FLEX Lesson4-Lesson6 e-spire	関係代名詞、過去完了、同格that、原形不定詞、形式主語it、強調構文、受身の進行形、付帯状況のwith オンラインによる英作文指導	64				○	
	9								
	10								
	11								
	12								
3	1	多読活動		1				○	
	2	FLEX Lesson7-8	関係代名詞の非制限用法、関係副詞、仮定法過去、関係副詞の非制限用法、仮定法過去完了	43					
	3	Online Speaking Training	オンラインによる英会話練習						

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
外国語	英語表現Ⅰ	2	高校1年	必修

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な視点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			
学習内容の概要	必要な英語表現を覚え、適切に書いたり、話したりできるように演習を行う。			
評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。
評価の方法	小テスト 課題提出 授業態度 30%		定期考査 70%	
教科書・教材等	ZESTAR総合英語 in 47 Lessons、ZESTAR総合英語 in 47 Lessons Workbook (以上、Z会) 総合英語FACTBOOK(桐原書店) キクタン【Basic】4000 (アルク)			
授業形態	習熟度別			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	ZESTAR総合英語 Lesson1-11	文の構成、文の種類、時制、完了形、助動詞、受動態	26					
	5								
	6								
	7								
2	8	ZESTAR総合英語 Lesson12-21のPlus	不定詞、動名詞、分詞、関係詞	30					
	9								
	10								
	11								
	12								
3	1	ZESTAR総合英語 Lesson22-27	比較、仮定法、否定、時制の一致と話法	22					
	2								
	3								

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
家庭	家庭基礎	2	高校1年	必修

科目の目標	人の一生と家族・家庭及び福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
学習内容の概要	第1章 自分らしい人生をつくる 第2章 子どもと共に育つ 第3章 高齢社会を生きる 第4章 共に生き、共に支える 第5章 食生活をつくる 第6章 衣生活をつくる 第7章 住生活をつくる 第8章 経済生活を営む 第9章 生活を設計する			
評価の観点	関心・意欲・態度 家族や家庭生活について関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。家庭生活向上のために意欲的に取り組む姿勢があるか。学んだことを生かそうとする実践的な態度を身につけたか。	思考・判断 家族や家庭生活に関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。家庭生活向上のために意欲的に取り組む姿勢があるか。学んだことを生かそうとする実践的な態度を身につけたか。	技能・表現 食事づくりや衣生活、住生活の管理に必要な基本技術を身につけているか。生活上の工夫や自分の考えを的確に表現することができるか。	知識・理解 家庭生活の意義や役割を理解したか。高齢者や子どもに対して正しい理解を持つことができたか。衣食住や消費生活などに対する基本的な知識を身につけているか。
評価の方法	定期考査 60% 授業態度等 40%			
教科書・教材等	家庭基礎(東京書籍) 基礎縫いプレレッスンキット・基礎縫いリネンメイドキット(クロスサム)			
授業形態	一斉、グループ			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	第1章 自分らしい人生をつくる	・家族・家庭生活をみつめる	2					
	5	第5章 食生活をつくる	・食生活について考える	18					
			・食事の栄養・食品						
			・食生活の安全と衛生						
6		・生涯の健康を見通した食事計画							
		・調理の基礎							
7	第7章 住生活をつくる	・住生活について考える	8						
		・住生活の計画と選択							
2	8		・これからの住生活						
	9	第3章 高齢社会を生きる	・高齢期を理解する	8					
			・高齢者の心身の特徴						
	10	第6章 衣生活をつくる	・被服の役割を考える	14					
			・被服を入手・管理する						
11	第2章 子どもと共に育つ	・これからの衣生活(手縫い、ミシン縫いの実習)	10						
12									
3	1	第4章 共に生き、共に支える	・私たちの生活と福祉	6					
	2	第8章 経済生活を営む	・国民・国際経済と家庭の経済生活	8					
		第9章 生活を設計する	・現代の消費社会 ・生涯を見通す						
		第1章 自分らしい人生をつくる 家庭基礎のまとめ	・青年期の課題と人生をつくる ・ホームプロジェクト	8					

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
情報	情報の科学	1	高校1年	必修

科目の目標	情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。			
学習内容の概要	現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を科学的な見方・考え方で理解し、習得させるとともに、情報機器等を活用して情報に関する科学的思考力・判断力等を養うなど、社会の情報化の進展に主体的に寄与することができる能力・態度を育てることに重点を置く。 またプレゼンテーションなどの実習を通じ、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の育成をはかる。			
評価の観点	関心・意欲・態度 各単元の考え方や情報社会の事象に関心を持ち、積極的に活用する態度を身につける。	思考・判断 氾濫する情報を批判的に読み解き、必要に応じて活用する。	技能・表現 デジタル技術の性質を理解し、ユニバーサルデザインの観点を取り入れた表現をする。	知識・理解 アルゴリズムとデータベース活用の基本を学び、自動化の有効性を活用する。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 ・定期考査 ・提出物 ・課題実習			
教科書、教材	定期考査	60%	授業態度等	40%
授業形態	一斉・グループワーク			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	メールマナーとプレゼンテーション	ビジネスメール及びプレゼンテーションの基礎をタブレット端末を使い実習を行いながら学習する。	2	○			○	
	5	コンピュータによる情報の処理と表現	身の回りの情報機器をもとに「アナログ」と「デジタル」の関係について学ぶ。さらに、様々なデジタル技術に触れることでデジタル表現の理解を深める。	8					
	6								
	7	ネットワークとコミュニケーション	情報通信技術の基礎を学ぶ。本校のネットワーク構成も引き合いに出し、インターネットの世界や、そこでのコミュニケーションについて知る。	4					
2	8	情報システムが支える社会	情報セキュリティやユニバーサルデザイン、著作権法など、情報化社会における安全・安心とは何かを理解する。	8				○	
	9								
	10								
	11	問題の解決と処理手順の自動化	プログラムの基礎として、簡単なアルゴリズムを学ぶ。順次、判断、繰り返しの手順を組み合わせることで、様々な処理を表現する。	5				○	
	12								
3	1	モデル化と問題解決	データベースの有用性について、表計算ソフトを使った実習より学ぶ。	5				○	
	2								
	3	情報通信ネットワークと問題解決	グループで情報機器を活用した問題解決を学ぶ。	3					

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態					
情報	探究基礎Ⅳ	3	高校1年	必修					
科目の目標	デザイン思考を活用し, 未来における世界の課題を創造的に解決できるようになる。								
学習内容の概要	デザイン思考を使って創造的に課題解決を行います。今後世界においても大きな課題となりうる人口減少問題について, 課題先進とも言える鳥取において人口減少問題の課題解決を行います。これまで以上にデータ活用に重点を置き, 根拠付けのためでなく, 課題解決の方法にデータを活用することも考えてみましょう。AIやビッグデータにも触れながら, みなさんがこれから生きる未来の課題解決について考えます。								
評価の観点	・デザイン思考を活用できたか。 ・チームで協力して課題解決できたか。 ・データに基づいた根拠ある課題設定や, データに基づいたテスト(検証)ができたか。 ・世界の課題と地域の課題を関連付けた課題設定ができたか。 ・先進的・革新的な解決策をプロトタイプとして形にできたか。 ・解決策の提案に対して共感を得ることができたか。・設定した課題は解決されたか。								
評価の方法	ポートフォリオ	成果物	発表						
教科書・教材等	毎回の活動をiPadに記録(ポートフォリオ)していきますのでiPadを忘れないように。								
授業形態	一斉								
年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	オリエンテーション	全体スケジュール, デザイン思考について	8				○	
	5	IDEACamp	ポートフォリオについて, 人口現象問題について	6	○	○			
		【共感】	佐藤講師	6				○	
		人口減少問題の現状について調べる	5				○		
	6	I&V Design ワークショップ	6/9 牧野講師 他	6	○	○			
2	7	【問題提起】	鳥取の人口減少問題における課題設定	5				○	
	8	【創造】	課題解決策の提案	5					
	9	プログラムCamp	7/27, 7/28 AIDojo山元講師	8		○			
	10	【プロトタイプ作成】	プロトタイプの作成	10	○				
	11	校内中間発表	芸術祭にて作品展示	16			○		
3	12	【共感】フィールドワーク準備	フィールドワークによりデータ収集	6				○	
	1	フィールドワーク	課題の妥当性について検証	6					
	2	【問題提起】【創造】修正	フィールドワークの結果を踏まえ修正	6				○	
	3	【プロトタイプ作成】修正	フィールドワークの結果を踏まえ修正	10			○		
	4	【テスト】	解決策の実施・検証	9	○				
4	5	【フィードバック】中間発表	中間発表を経て, 不足していた部分を修正	5					
	6	修正	必要があればデータを改めて収集	4	○				
	7	発表準備	ポスター作成・発表練習	8				○	
	8	【フィードバック】青開学会							
5	9	海外研修準備	オーストラリアにおける人口減少問題について						
	10	海外研修					○		